

課題番号1

課題名		【重点課題2】新規就農者・企業の確保育成 都市農業を支える新たな担い手の確保育成	
対象： 新規就農希望者、管内新規就農者		計画期間 R4～R8	事務所名 北部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果	
担い手の確保、有機農業の推進	○大阪産(もん)スタートアカデミー(有機農産物コース)の実施 ○大阪産(もん)スタートアカデミー(いちごコース)修了生の就農支援	・R5アカデミー(有機農産物)の実施 受講者数:4者(目標)→6者(実績) ・R3.4アカデミー(いちご)修了生の就農支援 3者(目標)→4者(実績)	

総合評価 (コメント)
<p>A : 1名 B : 4名</p> <p>■次年度の課題把握については、適切であると感じる。引き続き、修了生や就農者と向き合いながら、普及指導が進められることを期待する。</p> <p>■大まかには課題、目標、活動、成果すべて良いと思うが、成功しそうな目標設定と活動内容であると感じる点もあり、成功事例だけがクローズアップされているようにも感じた。新規就農者の確保や有機農業というのは本来もっとハードル高い課題であると思うので、活動や成果が評価対象となるから仕方ない部分もあるが、もう少し掘り下げて具体的に課題設定と目標設定をしてもよいと思う。</p> <p>■いずれの事務所にも共通するが、指導作物の選定では、検討会で指摘があった、マーケットインの視点をどう取り入れるかも今後の検討課題だと感じた。一方で、農地の面積が取れない大阪府では高付加価値が必要で、新規就農者の志向も考えると指導作物が有機農産物や果物が中心になるのはやむを得ないと思う。 以前に話を聞いた府内の農家では、有機農産物を消費者に直接販売することで小面積の多品種少量生産でも生計を立てられているとのことだった。新規農家の定着にはそうした経営手法の検討、指導も必要ではないか。</p> <p>■新規就農者にはいちごと有機栽培のハードルが高いのではないか。売上の目標金額及び経費などの数字がほしい。</p>

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。